千石の米積みてあり。淨定是より發心して、泰澄大師に仕へて木樵・水汲ありて修行せしと也。去ば泰澄に淨定・臥りの二行者ありて、泰澄の曰く、淨定の身行は安し、臥りの心行はかたしとありしと云へり。其鉢の子の至る所を今鉢ヶ崎村と云ふ。』と記するが如きは是である。

ブセン　夫錢　↓ブギン　夫銀。

フゾウイン　普藏院　鳳至郡曹洞宗總持寺の境内に在つて、僧大源の建立に係るものであつたが、今は存せぬ。

フソウチョウジュロク　扶桑長壽錄　二冊。森田平次著。上天子より下庶民に至るまで、古來長壽を以て著れたものを、國史諸記錄に徵して書いたものである。

ブタ　豚　元祿十年三月十六日の文書に、金澤町中に藩の御豚を放飼するを告げ、若し屋敷廻など荒した時に追拂ふことは苦しくないとあり、別紙に放飼の豚死する時はその町より屆出づべく、萬端犬同事と心得よとある。これは生類憐の幕令の餘波である。

フタアナ　二穴　鹿島郡能登島庄に屬する部落。能登名跡志に、『此村を二穴村と云ふは、磯山の腰に洞二つあり。沖にて難風に逢ひし船、此洞に入りて凌ぐ也。』と見ゑる。ここにいふ洞穴は海際に面するもので、男穴は二百人許を入るべく、早天に邑民雨乞をなすの習慣があり、女穴は狹くして深く、底に鹽泉が沸くといふ。

フタアナジョウ　二穴城　鹿島郡能登島なる二穴領の岬端に在つた。越登賀三州志に、事跡湮滅するが、この館跡が中古から存することは人の口碑に在り、天正九年前田利家受封の後、高畠茂助・宇野十兵衛をこの城址に置いたことは舊記に見えるとある。

フタイシ　二石　越登賀三州志に、天正九年遊佐續光父子が櫛比庄二石村翁新五郎の家に潛匿してゐたのを捕へて刎首したことを記し、註に二石村といふものは今存せぬ。或は鳳至郡小石村のことではあるまいかとしてゐる。按ずるに二石村は二ヶ村の誤寫であらう。↓ニカムラ　二箇村。

フタウゲ　二曲　能美郡輕海郷に屬する部落。府峠から起つた名稱で、二輪筒とも書く。明治八年十月二曲・清水の二村を合併して出合と改稱した。

フタウゲ　府峠　能美郡二曲に在る峠。この路は、往古加賀の國府から佛ノ原を經て別宮へ出で、白山・鶴來を聯絡するもので、藩政時代に幕府の巡見上使が之を通過する例であつた。今三坂峠とも三坂越ともいひ、三坂部落に隣つて二曲の部落がある。

フタウゲイシ　二曲石　能美郡出合に產する石材。石英粗面岩質凝灰岩で、帶綠青色火山灰の凝結から成り、質全く粗面で稍硬い。

フタウゲジョウ　府峠城　能美郡二曲に在つた。越登賀三州志故墟考に、府峠今二曲に作り、二曲村の南山中に在る。別宮と僅かに大日川を隔てる許りであり、別宮城の支堡らしい。天正八年柴田勝家毛利九郎兵衛を守將とし、三戸田久次郎を副へ、兵三百七十餘を附してこの堡に置いたが、九年賊起つて之を陷れたとある。

フダカヘ　札替　↓クジカヘ　鬮替。

フタギジュンパク　二木順伯　諱は恒福。初め前田駿河守に仕へ、寶曆四年御鍼醫として召出され、十五人扶持を受け、天明二年八月歿。子孫順庵・順丈・須孝等相繼いだ。

フタギドウセン　二木道專　石川郡藤塚の人。本吉傳記に、菅原道旬入道藤塚村に住して近里七ヶ所の棟梁であつた。その門前に松梅の二株があつたから、人呼んで二木殿と稱した。道旬の子道專慈仁にして民之に馴れたが、道專は新たに社を築いて祖神を崇め、從來在る所の山王の小祠を以て末社としたと。本吉山王由來記に、二木道仙といふ一揆大將があつたとするも、道專のことであらう。椋部考古游記に、平加村の西沙漠中に二木道仙の館址があると記する。

フタクチ　二口　能美郡白山下に屬する部落。明治中に至つて東二口と改めた。

フタクチ　二口　能美郡板津郷に屬する部落。成田家記に慶長五年前田利長出陣のことを述べて、『重て三道山まで御出馬被成、濱手二口村と申所に城取被仰付、山崎長門守御入置、三道山に暫く御逗留之處、小松との扱調。』とある。この部落は、明治中に至つて西二口と改稱した。

フタクチ　二口　石川郡中村郷に屬する。明治中に至つて上二口と改めた。

フタクチ　二口　石川郡戸板郷に屬する部落。

フタクチ　二口　羽咋郡邑知院内太田富永保に存する部落。二口村の名は、大永六年十月一宮社務職年貢米錢納帳に見える。

フタクチ　二口　羽咋郡河内の内の小字。

フタクチ　二口　珠洲郡馬渡の内の小字。

フタクチゴロベエ　二口五郎兵衛　初め御算用者で、年寄中席執筆となり、祿加增とも百二十石に至り、文化八年組外に列し、文政三年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

フタクチジョウ　二口城　能美郡二口にあつた。慶長五年の役に前田利長命じて二口の邊に堡を築き、山崎長門を置いたとあるが、堡跡は不明である。

フタクチロクチョウ　二口六丁　石川郡戸板郷に屬し、藩政の時には無家の村であつた。明治以降獨立の部落とする。

フタゴ　二子　珠洲郡若山庄に屬する部落。村名由來碧に、『此村昔年彦兵衛と申百姓之家名二子と申に付、則村名に唱申申申傳候。』とある。

フタゴヅカ　二子塚　江沼郡那谷谷に屬する部落。邑名は前方後圓墳あるに因る。茂憩紀聞に、この村の花立といふ所は芝原で、五六尺四方の地を踏めばその音大に響き、土中空虛である如くである。土人は瓶など埋んであるかといふと記する。これは前記の古墳とは別の所である。↓キツネヤマコフン　狐山古墳。

フタゴヅカ　二子塚　石川郡寺地領で、犬乘寺の門前なる畠中に在つた墳丘。もと家上に古松三株があり、寛政九年五月建造した石碑に、俳句多數と詩一編を刻したものを樹てあつた。芋掘藤五郎とその妻和五との墓であるから二五塚であると傳へたのは俗說で、その甕塚形の古墳であつたことは北陸人類學會志に載せられる。

フタゴヤマ　二子山　鳳至郡武連に在る。能登の小富士とも能登富士ともいふ。高さ一八二米。地質輝石安山岩。能登誌に、『此山は名山にて絕頂二つにわかれて富士の如し。餘